

シーシーエス株式会社 2011年7月期決算説明



2011年9月14日

JASDAQ コード6669

目次

1. 2011年7月期 決算概要
2. 2011年7月期 重点施策と成果
3. 2012年7月期 通期計画
4. 参考資料

1. 2011年7月期 決算概要

■ 2期連続赤字から、黒字化達成

2010年7月期営業利益
▲239百万円



2011年7月期営業利益
228百万円

■ GC注記の解除

事業別の状況

(単位:百万円)

【売上高】	2010/7 期	2011/7 期	増減	
	通期実績 [A]	通期実績 [B]	前年同期比 [B] - [A]	[B] / [A] - 1
■LED照明事業	4,498	5,175	677	+15.1%
■植物育成プラント事業	9	51	41	+415.0%
■その他事業	266	87	▲179	▲67.3%

LED照明事業は、大幅に売上が増加しました。特に海外事業が好調に推移、国内工業用は堅調に推移しました。

(単位:百万円)




【営業利益】	2010/7 期	2011/7 期	増減	
	通期実績 [A]	通期実績 [B]	前年同期比 [B] - [A]	[B]/[A] - 1
■LED照明事業	287	533	246	+85.7%
■植物育成プラント事業	▲26	▲233	▲206	-
■その他事業	▲399	▲58	340	-

フェアリープラントテクノロジー(FPT)の赤字幅減少が主な要因

2011年7月期 連結業績

(単位:百万円)

	2010/7期		2011/7期		変動	
	累計実績		累計実績		前年同期比	
	金額 [A]	売上比	金額 [B]	売上比	[B]-[A]	[B]/A]-1
売上高	4,775	100.0%	5,314	100.0%	539	+11.3%
売上総利益	2,578	54.0%	3,191	60.1%	613	+23.8%
販管費	2,818	59.0%	2,963	55.8%	145	+5.2%
営業利益	▲239	▲5.0%	228	4.3%	467	—
経常利益	▲253	▲5.3%	179	3.4%	432	—
当期純利益	▲1,419	▲29.7%	89	1.7%	1,509	—

	前年同期比	キーポイント
売上高		海外工業用分野が大幅に売上拡大
販管費		前年同期比微増
営業利益		売上増加と事業見直しにより大幅改善
当期純利益		黒字へ改善

GC注記について

2010年7月期 GC注記の要因

- ① 2期連続営業損失
- ② 2期連続営業キャッシュフローのマイナス
- ③ FPTの債務超過
- ④コミットメントライン契約の財務制限条項に抵触

2011年7月期 期末の状況

- ① 営業利益で228百万円の黒字化を達成
- ② 営業キャッシュフローは、240百万円のプラスに転換
- ③ FPTは、9月末に不採算事業から撤退、赤字幅が縮小
- ④ コミットメントライン契約を終了し、各金融機関との相対契約に移行
- ⑤ 7月に優先株式による第三者割当増資を実施し、約10億円を調達

要因を解消し、GC注記を解除しました。

貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

資産	10/7 期末	11/7 期末	負債・純資産	10/7 期末	11/7 期末
現金及び預金	754	1,763	流動負債	2,516	2,956
受取手形・売掛金	1,501	1,324	固定負債	1,755	1,126
たな卸資産	770	1,025			
その他	276	167			
流動資産合計	3,301	4,281	負債合計	4,271	4,082
有形固定資産	1,764	1,704	資本金	461	461
無形固定資産	81	65	資本剰余金	576	1,513
投資その他の資産	90	127	利益剰余金	200	249
			自己株式	▲159	—
			為替換算調整勘定	▲112	▲127
固定資産合計	1,936	1,897	純資産合計	966	2,097
資産合計	5,237	6,179	負債・純資産合計	5,237	6,179

2011年7月第三者割当による優先株発行により、資本剰余金が増加しております。
自己資本比率が33%(前期末18.5%)に。

2. 2011年7月期 重点施策と成果

■ 2011年7月期の重点施策

(1) 国内工業用照明分野の強化・拡大

(2) 海外事業展開のための体制づくり

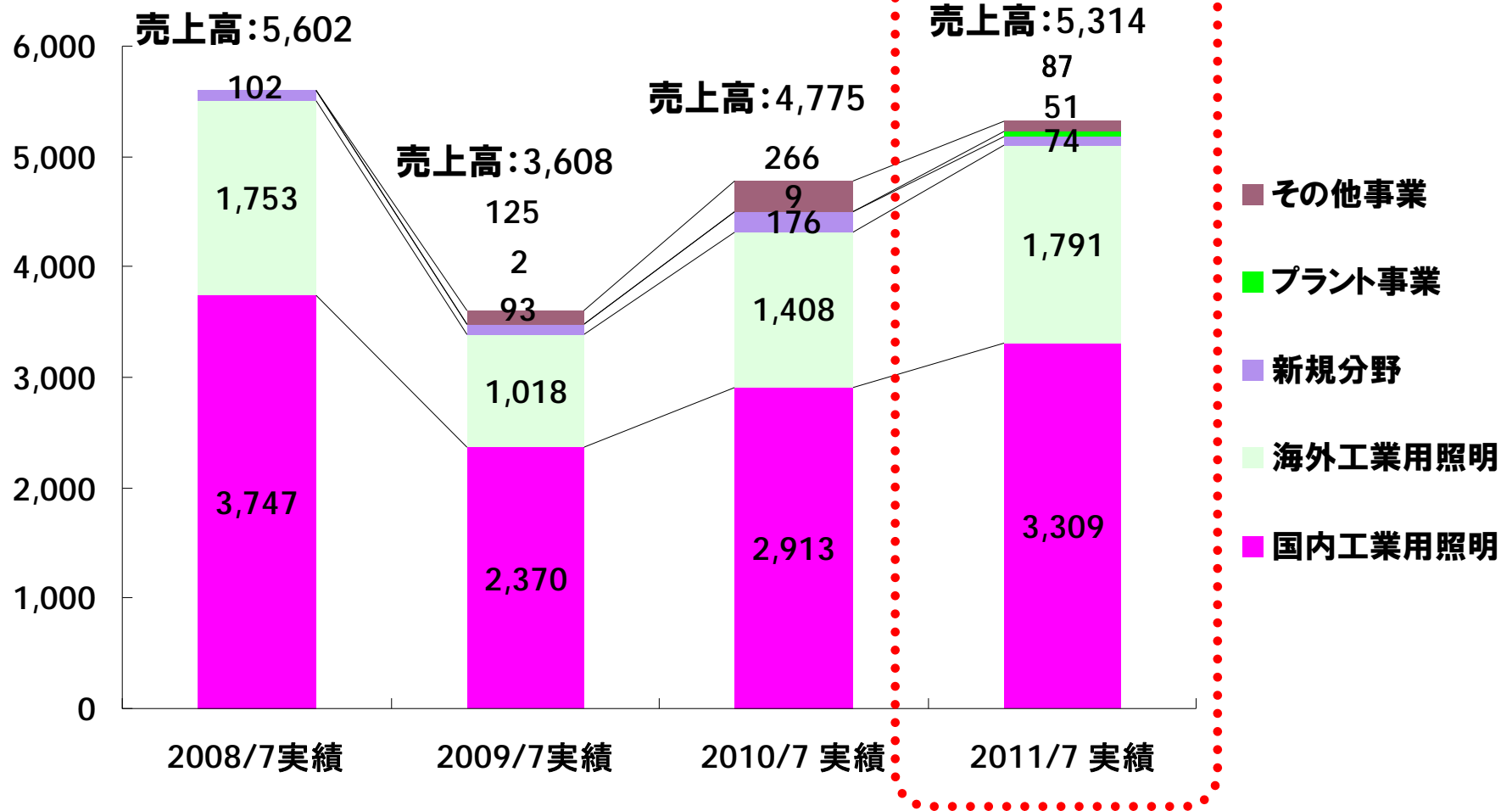
(3) 新規事業分野本格立ち上げ

(4) 植物育成プラント事業の確立

2011年7月期 重点施策と成果

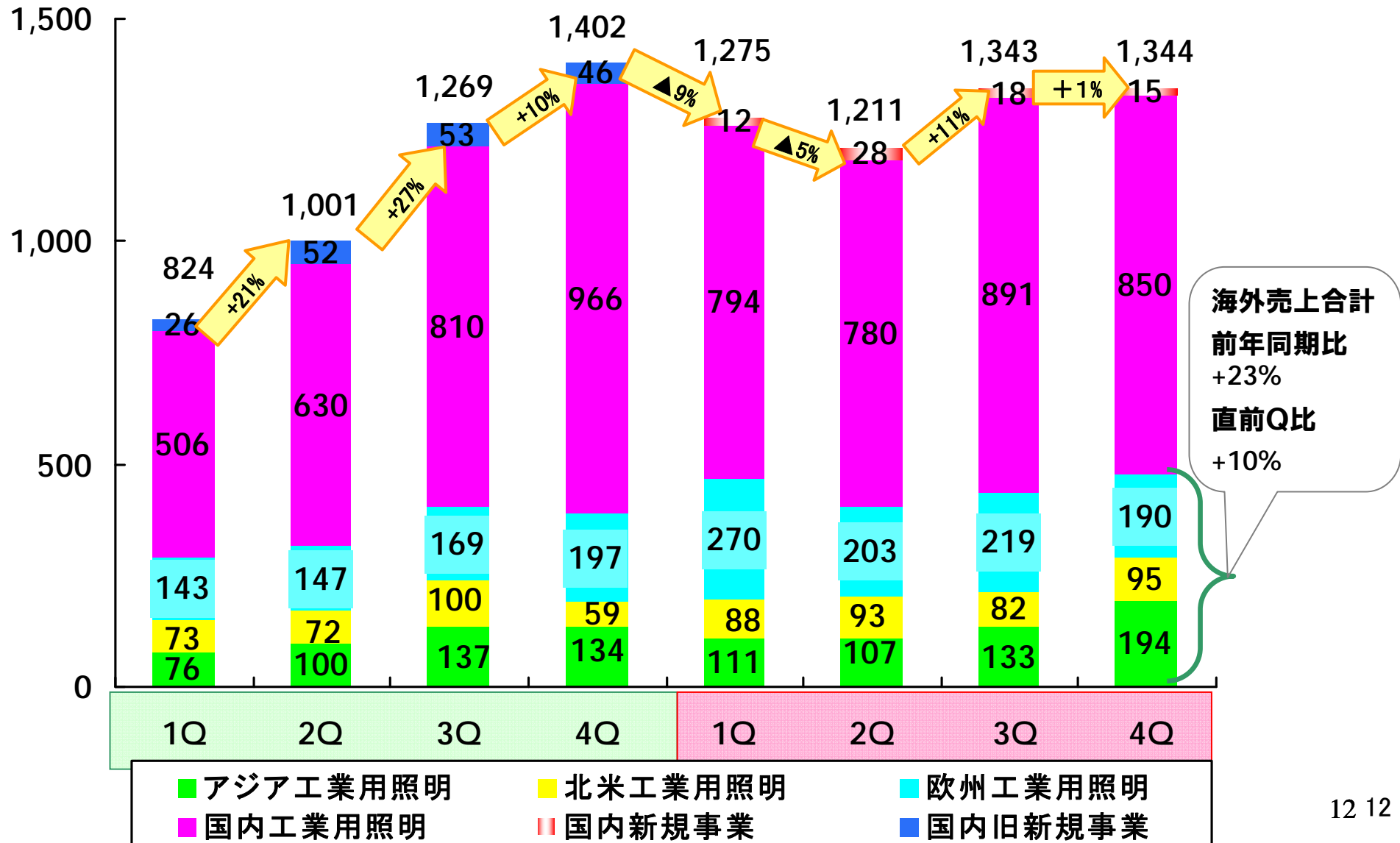


(単位:百万円)




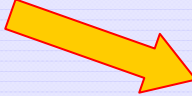


2011年7月期 重点施策と成果

(単位:百万円) LED照明事業・地域別売上高推移(2010年7月期~2011年7月期)



2011年7月期 重点施策と成果

■ 国内工業用照明市場の状況

重要分野	業界状況	当社の状況
電子・半導体 	スマートフォン・タブレットPC向けは活況。震災による一時停滞から、回復傾向。新たな投資へは、電力制限・円高の影響から様子見。	総じて受注は堅調。PCからタブレットPCへの動きが活発化する中、設備変更、新規設備導入に期待。
太陽電池 	国内需要の伸びは鈍化。海外需要に対して、国内企業の海外移転が活発。	海外移転先における投資需要の確保に注力。
自動車 	震災直後の被害は、大きかったものの予想より早く回復。年末に向けて増産か。	震災後の低調から回復し、現在は横ばいに推移。増産立上げに備え自動車電子部品に注力。提案力で勝負。
三品 (食品・薬品・化粧品) 	震災の影響により、製缶・容器・ペットボトルの需要が活発。今後も安定的に推移。	PTP検査・印字検査の自動化が進み、案件は安定的に推移。食品は年末に向けた設備投資に期待

国内工業用照明分野における成果

(単位:百万円)



2011年7月期より新規FAは工業用照明分野に含むため、
2010年7月期実績を組み替えております。

2011年7月期総括

◎震災の影響等のマイナス要因はあるが、
堅調に拡大。

- 震災の影響により、顧客の計画が変更。
受注が一部中止、または後倒しへ(1.2億円)。
- スマートフォン、タブレットPC市場の活況により
電子・半導体関連向けが好調。
- ライン照明市場へ本格参入を図る。
東京営業所へライン実験室開設。
- UV照射器、目視顕微鏡(工業用)の売上が堅調
カスタム対応力を活かし、新規案件の獲得注力
が実る。

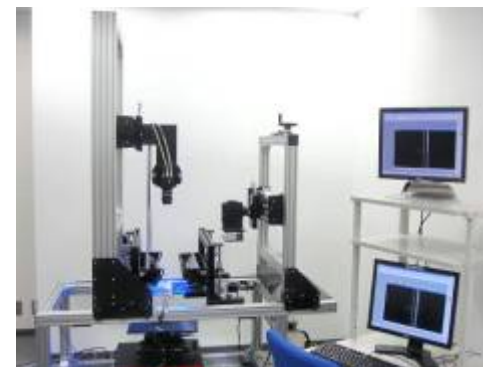
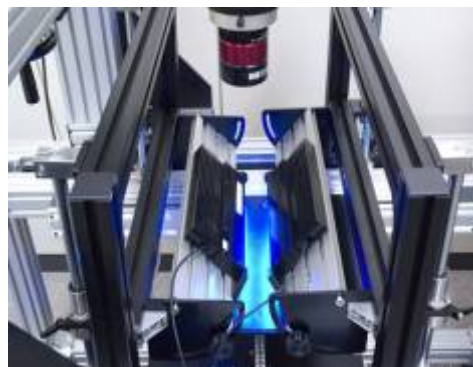
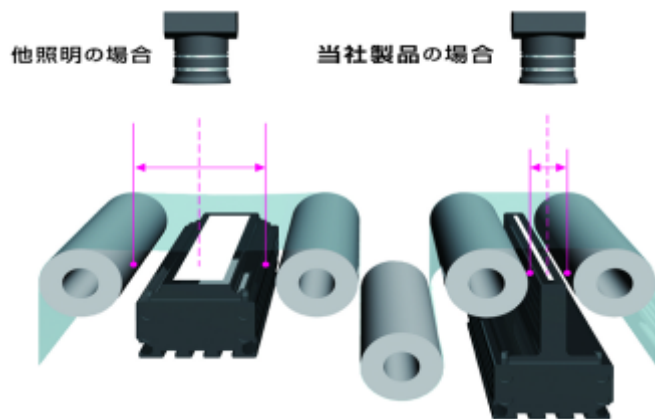


国内工業用照明分野における成果

ラインセンサ用照明市場への取組み強化

東京営業所にライン実験室新設(2011年4月)

フィルム・木材・タイル等
高まる検査需要



担当のアプリケーションエンジニアを配置

迅速な対応とソリューション能力の向上

最適な照明のご提案、顧客満足最大化



渋谷区恵比寿(朝日生命恵比寿ビル)

国内工業用照明分野における成果

**〔新規FA分野〕これまでの研究開発、営業活動が実る。
カスタム対応力を活かし、売上拡大を実現**

・新規FA分野とは

主にFA（ファクトリーオートメーション）で使われる画像処理用途以外の照明。

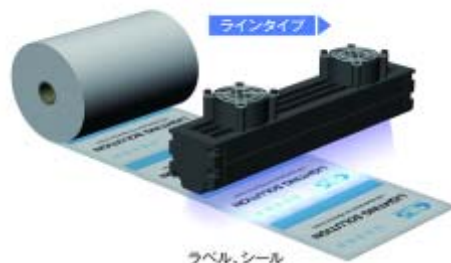
・使用用途広がるUV照射器（紫外LEDならエリア照射が可能）



紫外LED照射器
（面タイプ）

用途例

■ UVインクの硬化



■ パネルの貼り合わせ



学会・展示会に出展
パートナー企業（研究機関等）の
開拓も実施

・色の再現性を追求した目視・顕微鏡（自然光LEDなら本当の色が見える）

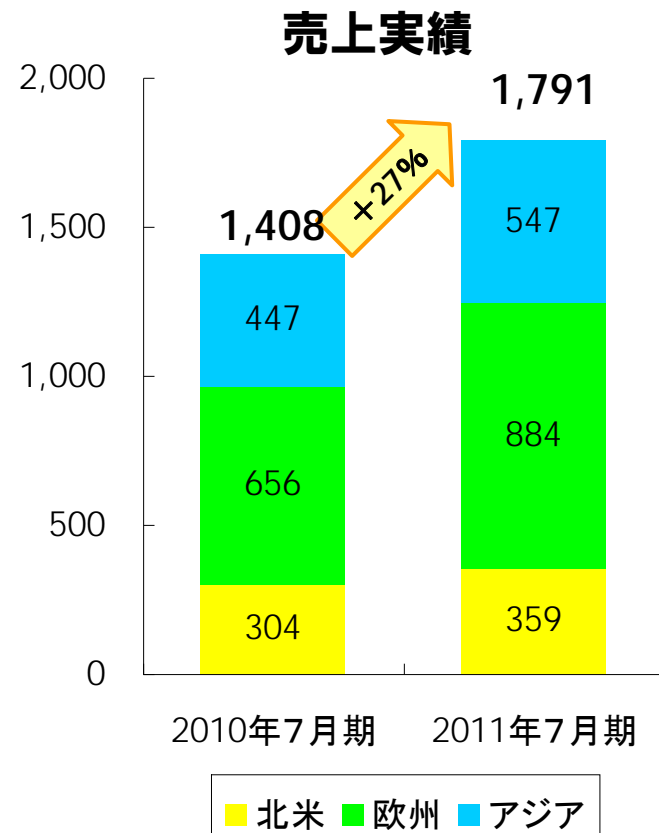
用途例

印刷業界：色の検査
製造業全般：目視検査用
研究分野等：顕微鏡照明・・・大手顕微鏡メーカーの生物顕微鏡に採用



海外工業用照明分野における成果

(単位:百万円)



2011年7月期総括

◎円高を吸収して好調に売上拡大。

【欧州】

・電子・半導体関連の大口顧客からの受注が好調。
結果、大幅な売上拡大。

【北米】

・主要顧客への関係強化を実施。
・営業強化が徐々に実を結び、総じて売上は堅調に推移。

【アジア】

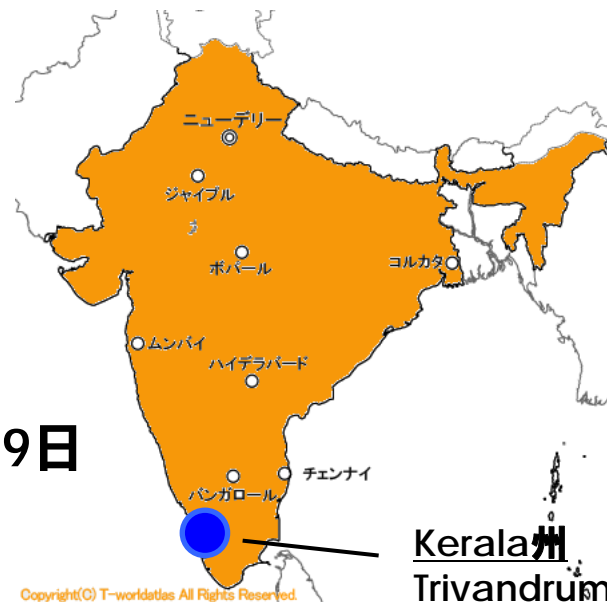
・インド子会社、タイ駐在員事務所を開設し、拠点の整備を進める。
・中国、韓国においても品質の高さが評価され、売上伸長。

海外工業用照明分野における成果

インドに連結子会社の設立 ＜CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVT.LTD.＞

目的：製品開発力とコスト競争力の強化

グローバルネットワークにおける、重要な拠点として位置づけ、
優秀な人材により、高品質・低コストな
開発センターへ



設立：2011年5月19日



海外工業用照明分野における成果

タイ・バンコクに駐在員事務所を開設(2010年12月)

～新興国需要への取組み強化～

CCSAsia タイ駐在員事務所



顧客満足最大化

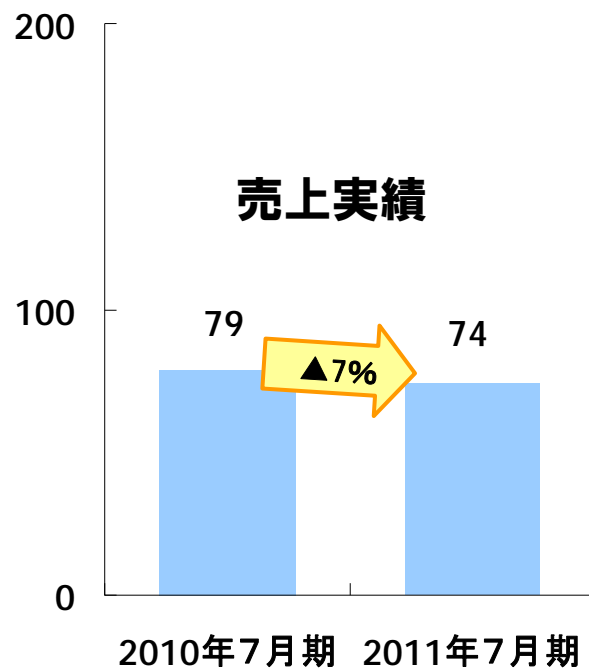
現地ニーズに迅速対応

的確な現地情報の把握



新規事業分野における成果

(単位:百万円)



2011年7月期より新規FAは工業用照明分野に含むため、
2010年7月期実績を組み替えております。

2011年7月期総括

◎製品リリースの遅れ、業務提携の遅れにより苦戦。

・高演色・高輝度「LED電球」をテスト販売開始
(2011年7月)。

楽天市場・大手量販店で販売。

・宝石貴金属店向けLED照明「ダイヤモンドライト」を
発売(2010年12月)。

第22回国際宝飾店に出展(2011年1月)。

・提携先企業との連携強化。自然光LEDの特長を
活かした製品開発、市場投入を図る。

・自然光LED照明を中心に製品ラインナップ拡充へ。

新規事業分野における成果

新規事業製品開発スケジュール



宝飾貴金属店向け照明
「ダイヤモンド」12月発売



高演色・高輝度
「LED電球」7月発売



ウシオライティング株式会社と
共同開発「Cool Spot LED」
8月発売



美術館博物館用照明群



ダーモスコープ



デスクスタンド

キャスターライト

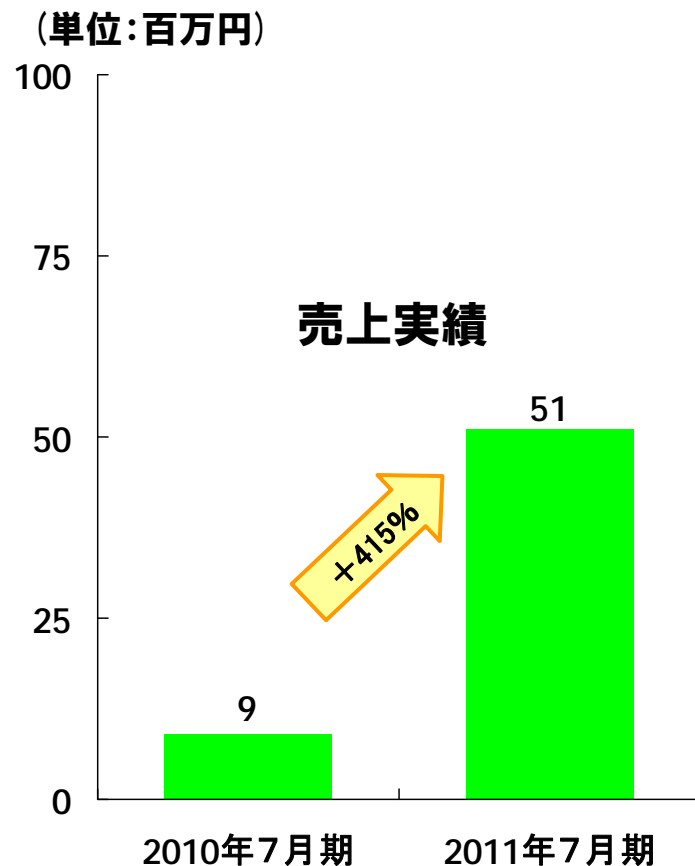
新IS-MINI

手術用照明

2011年7月期

2012年7月期

植物育成プラント事業における成果



野菜事業、レストラン・カフェ事業は
2011年7月期第1四半期をもち撤退

2011年7月期の総括

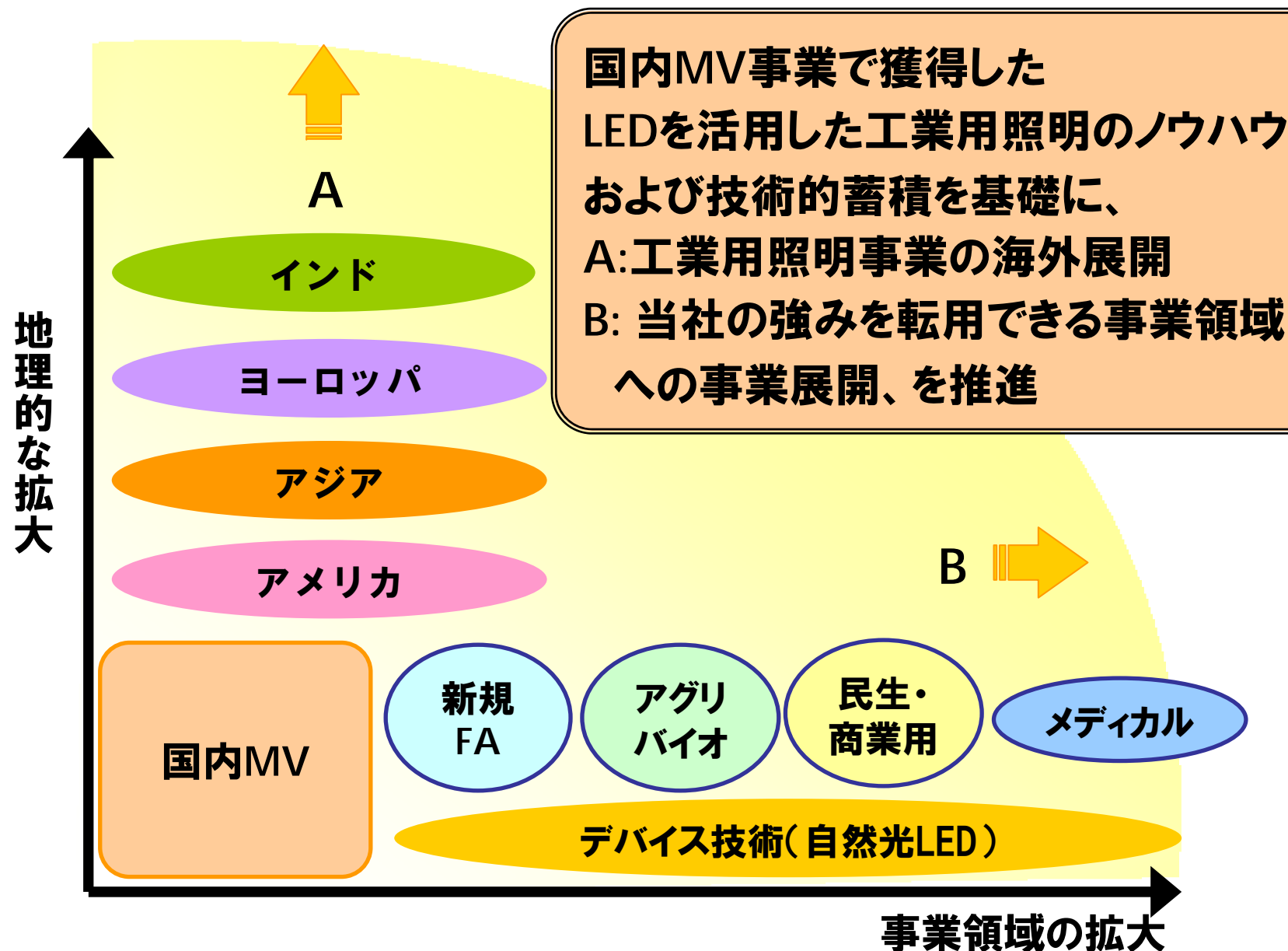
◎抜本的な改革を実施。

- ・野菜事業、レストラン・カフェ事業は、第1四半期をもって撤退し、プラント事業へ特化。
- ・デット・エクイティ・スワップにより財務基盤の改善。
- ・2011年9月 商号を株式会社フェアリープラントテクノロジーへ変更。経営体制を刷新。
- ・(株)フジワークにて植物工場が稼働開始。
(2010年8月)
- ・簡易型の野菜栽培ユニット「ミニベジプラント」を開発。植物工場案件の試験的用途にも活用。

3. 2012年7月期 通期計画

- ① 当社の事業戦略
- ② 各事業の2012年見通し
- ③ 事業分野別計画表
- ④ 2012年7月期(連結)

①当社の事業戦略

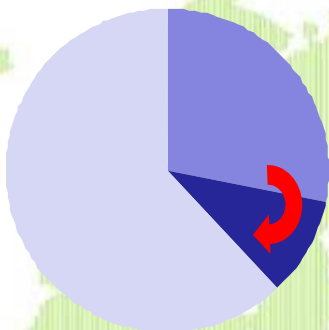


① 当社の事業戦略

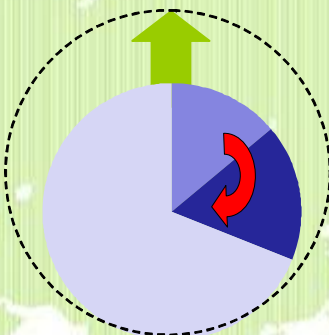
A: 工業用照明事業の海外展開

- 1999年 CCS America Inc.を設立
- 2004年 RDV PTE LTD社を子会社化(CCS Asia PTE.LTDへ商号変更)
- 2004年 CCS Europe NVを設立
- 2011年 CCSインドを設立

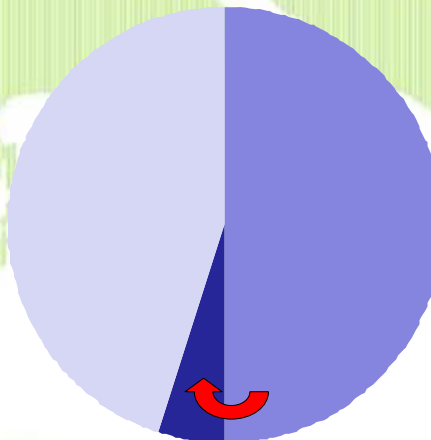
欧州



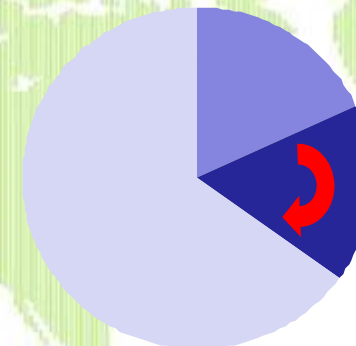
アジア(日本除く)



日本



北米



▶ 国内シェア50%、世界シェア(日本除く)21%

世界市場規模:200~250億円

各種資料から当社推計

①当社の事業戦略

B: 事業領域の拡大～新規事業

民生・商業用分野

アグリバイオ分野

メディカル分野

・アライアンスの強化により、
自然光LED製品を中心とした製品ラインナップの拡充

■ 三菱化学株式会社との業務・資本提携（2010年7月）

■ ウシオライティング株式会社と共同開発

～「Cool Spot LED」(2011年8月)



- ・「自然光LED」搭載スポットライト
- ・Ra:97(平均演色評価数)
- ・華やかな衣装・人の肌・花・料理など、
それぞれがもつ独特の色合いを再現
- ・ホテルや施設のバンケット、ウェディング会場、店舗、
ショールーム、商業施設などで使用



① 当社の事業戦略

B: 事業領域の拡大～新規事業

シーシーエス「LED電球」テスト販売開始(2011年7月)



「超高演色タイプ」自然光LED搭載

- ・業界最高水準の演色性(平均演色評価数Ra:97)
- ・本来の色の再現性が高く、自然な色合いを確認
キッチン・ダイニング・洗面所・化粧台の設置に最適



「超高輝度タイプ」

- ・業界最高水準の明るさ
- ・全光束:1,400lm(5,000K製品)
吹抜けの天井・高い天井・間接照明等に最適

① 当社の事業戦略

B: 事業領域の拡大～植物育成プラント事業

植物工場の企画・設計コンサルティング

植物工場の栽培・運営コンサルティング

- アライアンスによる
受託栽培の本格化
- ミニベジプラントは標準化し
拡販に注力



②各事業の2012年7月期見通し

(1) 国内工業用照明事業

■環境認識

- ・顧客ニーズの高度化・多様化が進行する一方で、国内企業の海外シフトを背景に、市場全体は緩やかな成長が見込まれる。

■今期のポイント

- ・電子・半導体関連を中心に新規顧客開拓に注力
 - ・新製品投入による売上獲得
 - ・UV、ライン照明による製品領域拡大の本格化
- ⇒売上目標：41億円

②各事業の2012年7月期見通し

(2) 海外工業用照明事業

■環境認識

- ・円高やギリシア問題等、不透明感が続く
- ・アジア・新興国を中心に高い成長が見込まれる

■今期のポイント

- ・グローバルネットワークを活用した分業体制の構築
- ・現地ニーズの吸上げ対応による顧客とのリレーション強化
- ・各地域ごとの販売代理店開拓による営業力の強化

⇒売上目標:19億円

②各事業の2012年7月期見通し

(3) 新規事業

■環境認識

- ・原発問題による電力不足の長期化・深刻化。
⇒LEDを活用した省電力への関心が高まる。

■今期のポイント

- ・「Cool Spot LED」、「LED電球」などの自然光LEDによる新製品の販売強化
- ・アライアンスの加速による営業力・提案力の強化
- ・開発マネジメント強化による円滑な新製品の市場投入
⇒売上目標：約4億円

②各事業の2012年7月期見通し

(4) 植物育成プラント事業

■環境認識

- ・原発問題により、より安全な食物への関心が高まる。
⇒CCSグループの推進する閉鎖型植物工場への引合い拡大。

■今期のポイント

- ・アライアンスによる野菜の受託生産開始
～生産本格化により福井工場の固定費を吸収。
- ・野菜栽培ユニット「ミニベジプラント」の標準化および販売本格化。
- ・収益力を高めた提案とプロジェクトマネジメントの厳密化による
確実なプラント受注
⇒売上目標：約4億円

③事業分野別売上

(単位:百万円)

	2011/7期		2012/7期		増減	
	通期実績		通期計画		前期比	
	金額[A]	売上比	金額[B]	売上比	[B]-[A]	[B]/[A]-1
国内工業用	3,309	62.3%	4,100	60.2%	790	+23.9%
海外工業用	1,791	33.7%	1,900	27.9%	108	+6.0%
新規事業	74	1.4%	390	9.5%	316	+427.0%
植物育成 プラント事業	51	1.0%	420	6.2%	369	+723.5%
合計	5,314	100.0%	6,810	100.0%	1,496	+28.2%

④2012年7月期計画（連結）



（単位：百万円）

	2011/7期		2012/7期		増減	
	通期実績		通期計画		前期比	
	金額 [A]	売上比	金額 [B]	売上比	[B]-[A]	[B]/[A]-1
売上高	5,314	100.0%	6,810	100.0%	1,495	+28.1%
売上総利益	3,191	60.1%	3,960	58.1%	769	+24.1%
販管費	2,963	55.8%	3,180	46.7%	217	+7.3%
営業利益	228	4.3%	770	11.3%	541	+237.5%
経常利益	179	3.4%	710	10.4%	530	+296.6%
当期純利益	89	1.7%	400	5.9%	310	+348.4%

4. 参考資料 ～会社概要～

シーシーエスの企業理念



光を科学し、社会に貢献する

Creative Customer Satisfaction
クリエイティブ カスタマー サティスファクション

お客様の満足を高めるための技術と
製品をひたむきに追求し、
企業活動を通じて社会の役に立ちたい

会社概要

- 商号 シーシーエス株式会社
- 本社所在地 京都府京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374
- 代表者 代表執行役社長 米田 賢治
- 創業 1992年
- 設立 1993年10月
- 資本金 461百万円
- 従業員数 連結 215名(連結)、178名(単体)
- 発行済株式総数 20,660株
- 株主数 2,890名
- 連結子会社 CCS America Inc. / CCS Asia PTE.LTD./ CCS Europe NV.
/CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVT.LTD.
株式会社フェアリープラントテクノロジー
(2010年9月29日株式会社フェアリーエンジェルより商号を
変更いたしました)
- 拠点数 国内 6カ所 / 海外(連結子会社含む) 7ヶ所



本社(京都市上京区)

(2011年7月末現在)

沿革

- 1992 創業
- 1993 シーシーエス株式会社設立
- 1994 画像処理用LED照明事業に特化
- 1999 CCS America Inc.(100%子会社)を設立(ボストン)
- 2000 東京営業所を開設(品川区高輪台)
- 2001 本社移転(現在の本社)
- 2003 上海事務所を開設(中国 上海市)
- 2004 ジャスダックに上場
RDV(S)PTE LTD社を子会社化(シンガポール)
CCS Europe NV(100%子会社)を設立(ベルギー)
名古屋テストングルームを開設(名古屋市西区)
- 2005 生産拠点と物流拠点を統合し、生産センターを開設(京都市下京区)
- 2007 仙台テストングルームを開設(宮城県仙台市青葉区)
KRPで研究開発事務所を開設(京都市下京区)
山口大学との共同開発で自然光LED照明を開発
- 2008 シーシーエス光技術研究所を開設(京都市上京区)
植物育成プラント事業に参画することを目的としてフェアリープラントテクノロジー社
(2010年9月29日フェアリーエンジェル社より商号変更)を連結子会社化
- 2009 自然光LEDの店舗用照明を開発。民生・商業分野へ参入
- 2010 三菱化学株式会社との間で資本・業務提携を締結
- 2011 タイ・バンコクにCCS Asia PTE.LTD.駐在員事務所を開設
CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVD.LTDを設立(インド)

参考資料:LED開発の歩み

- 1962年代 赤色と黄緑色が開発
- 1970年代 赤色と黄緑色が実用化
- 1993年 青色が製品化
- 1995年 純緑色の開発
光の三原色がそろそろ
- 1996年 白色が開発

- 現在 発光効率の向上
高演色性白色の開発

シーシーエスグループの事業領域

工業用照明

マシンビジョン用照明分野
(エリア照明・ライン照明)



新規事業

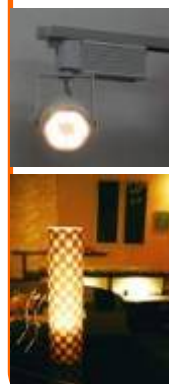


植物育成
プラント事業

新規FA分野



民生・商業分野



メディカル分野



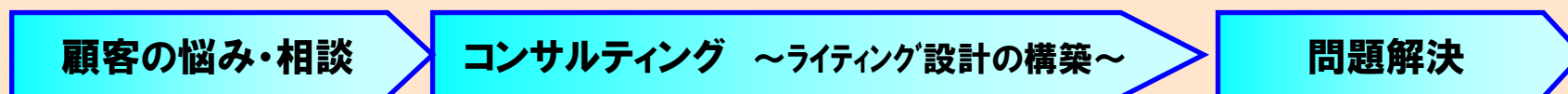
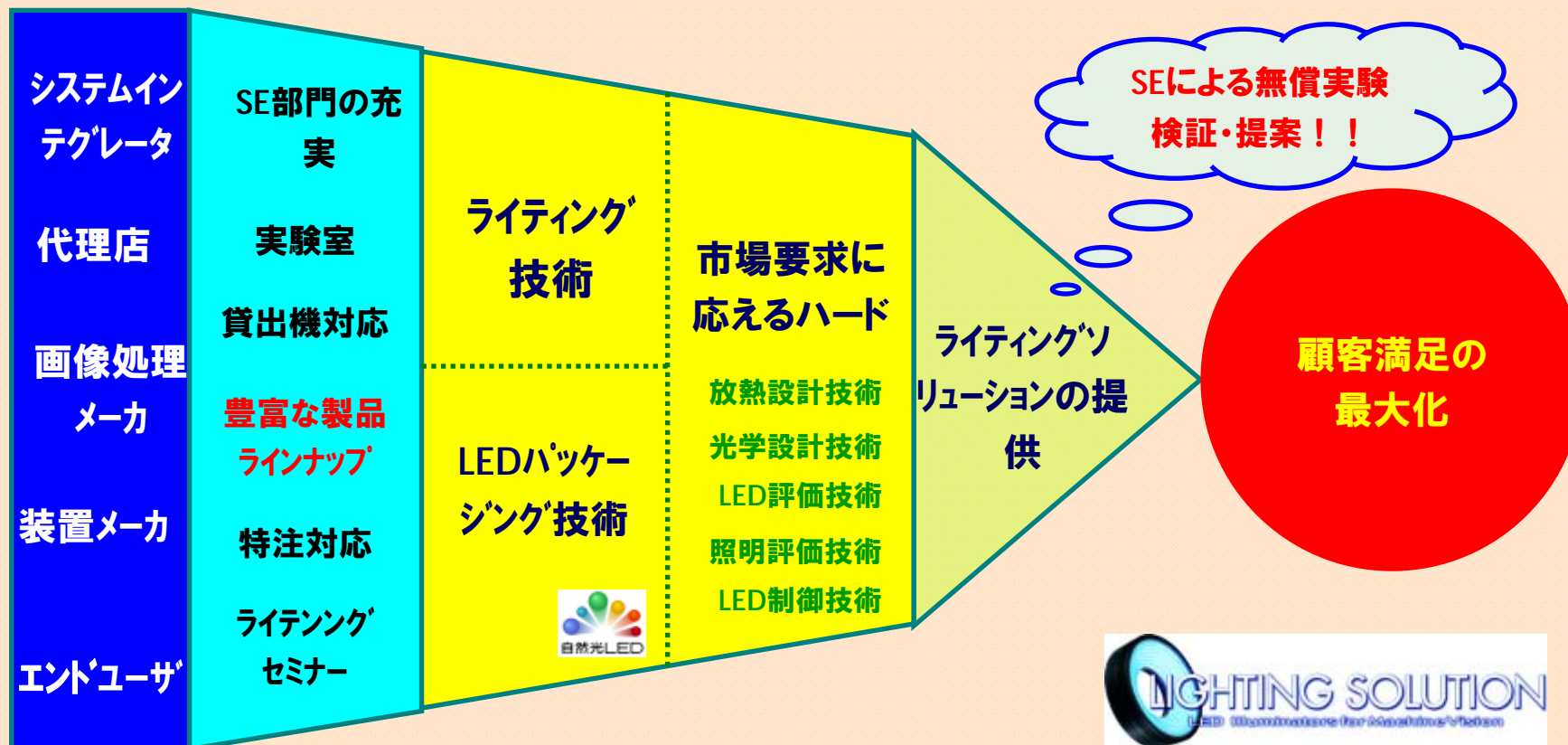
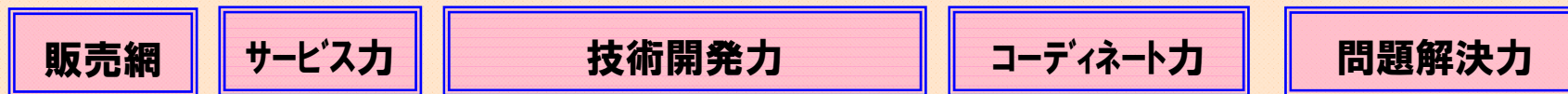
アグリバイオ分野



(株)フェアリープラントテクノロジー



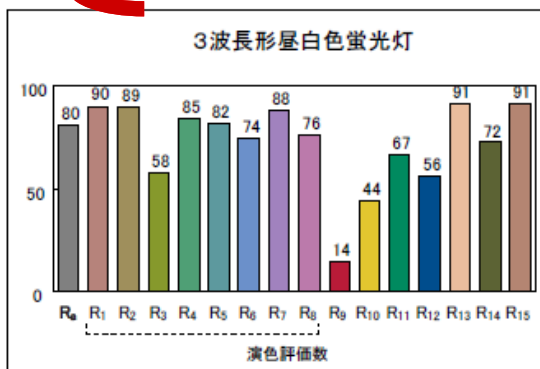
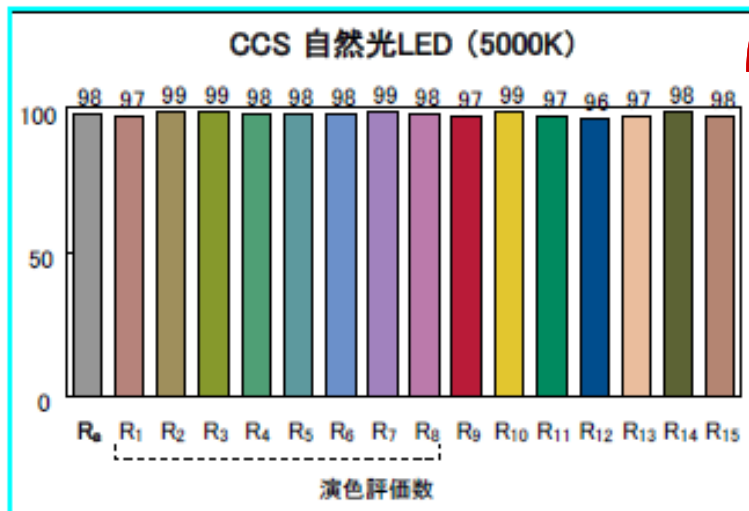
工業用照明事業のビジネスモデル



MV用LED照明のリーディングカンパニー



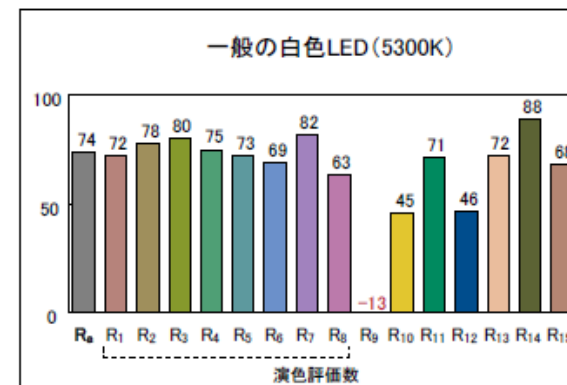
シーシーエスのLEDデバイス技術



3波長蛍光灯 (Ra=70)

シーシーエスの自然光LED (平均演色評価数 Ra:98)

・JIS規格で定義される色を平均98まで再現できる光である。



従来の白色LED (Ra:70)

自然光LED搭載照明の商品化に注力

商業施設の商品ディスプレイ用、ショーケース用照明



アパレル

美術館・博物館用照明



美術館



生鮮食品などのショーケース用照明



食品



植物工場

FPTの植物工場

- **クリーンルーム**

完全密閉型クリーンルームで清浄な野菜を栽培

- **空調**

室内空調によって、野菜の好む最適な環境を作り出し、年間を通して旬の野菜を提供

- **人工光**

光源に蛍光灯を採用(一部LEDを採用)

- **養液栽培**

本来、野菜に必要なミネラル分をコントロールし、栄養価の高い野菜を栽培

- **生産性**

季節や天候に左右されることが無く、年間を通して均質な商品を安定的に提供

植物工場のメリット：
完全閉鎖型植物工場で栽培しているので、
安心・安全な野菜を安定供給できる



CCSの植物育成用LED照明

LEDを用いる最大のメリット:

植物の栽培に必要な波長バランスを自由に選択できること。
これにより、蛍光灯より効率よく栽培することが可能となる。

- **低消費電力**

消費電力・空調電力が半減

- **最適な波長**

植物に合わせて最適な波長を選択

- **植物に合わせた光照射**

光の均一化・調光が可能

- **長寿命**

メンテナンスフリーの実現

